

# 研修報告書

報告書作成日：2024年4月25日

所属	氏名	研修実施期間
明日の向日	林 リ工	2024年4月18日～4月25日
研修実施機関名	研修名	研修実施場所
公益財団法人全国市町村研修財団	防災と議員の役割	滋賀県大津市唐崎町2丁目13番1号

令和6年

4月  
25日(木)

11:00～  
入寮受付・昼食

12:30～  
開講式・オリエンテーション

13:00～14:30

**講義** 過去の災害の教訓をこれからの活かすために

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 地域強化研究センター

特命准教授 磯打 千雅子 氏

ここ数年に発生した地震や台風、集中豪雨等による被害を振り返りながら、地域での連携や議員に求められること、防災の心構えや防災対策についてお話しいただきます。

14:45～15:55

**講義** 平時の防災と議員の役割

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋 一 氏

災害への対応は平時から意識し取り組んでおく必要があります。この時間では、後半の演習の導入として、平時から議員として取り組むべき役割についてお話しいただきます。

16:10～17:40

**演習** 平時の防災と議員の役割

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋 一 氏

防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井 恵美子 氏

講義を踏まえ、平時における議員の役割について、ワールドカフェ形式による意見交換を行います。

18:00～

**交流会** 夕食を兼ねて、ともに学ぶ受講者同士の親睦(情報交換・交流)を深めます。

令和6年

4月  
26日(金)

9:00～10:10

**事例紹介** 災害時における議会の対応と取組

福島県いわき市議会 議長 大峯 英之 氏

コーディネーター:

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋 一 氏

令和5年9月に発生した台風13号の大雨による被害を受けた際、危機対策本部を立ち上げ議会で対応されたことや議員の活動内容等、当時の状況を踏まえてお話しいただきます。

10:25～13:50(途中昼食休憩有)

**講義・演習** 災害時、復旧・復興期の議員の役割

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋 一 氏

防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井 恵美子 氏

災害時および復旧・復興期における議員の役割についての講義後、グループに分かれて意見交換を行い、議員として何が出来るかについて考えます。

14:00～14:45

**講義** ふりかえりとまとめ

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋 一 氏

防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井 恵美子 氏

14:45～15:00

**閉講・事務連絡**

◎過去の防災の訓練をこれからの活かすために

香川大学 IECMS 地域強化東研究センター 磯打千雅子先生

住民主体の防災の取組のこれまでにについて

万が一の災害の際には自助・共助

### 地区防災計画制度

東日本大震災の教訓を踏まえて創設された制度。地区住居者が主体となって地域の特徴を生かした防災時のマイルールをつくる取組。計画に基づいて住民の皆さんが計画から実施する。

地区防災計画の3つの視点がある

◎地区防災計画制度(制度の名前)多くの関係者を巻き込むことがポイント

◎日頃の挨拶や付き合いを大切にすることがポイント

◎地区防災計画書をもとに文書をつくってもらっている。読みやすくて手に取りやすいモノ。

これだけはみんなに知ってもらっておきたいということをもとめる。

平成26年から制度改正をされた。**災害対策基本法に基づき国の役割リスト・府・市**が地域防災計画書にかかっている。町長も津波に流されている。地域の防災はそこに住んでいる一番詳しい人が取り組む方がよい。市民が避難のルールはこうだ！ということを経済の時から情報共有しておくことで、災害が起きたときに平時・災害時の際のレスポンスがスムーズにいく。

地域で作った計画書を市の防災計画に入れ込む。各自治体によって好きに入れ込むことができる。

全国で2091地区

地域防災計画に反映済み

全国で5162地区が反映まち 向日市は作成している(令和4年)

地区防災計画策定に向けて活動中

◎東日本大震災後に地域防災計画書を作成したことがこの制度に繋がった。

発災の際の15分は共助で助け合う。その後は各自の安全を守って逃げる。

12ページで作成している。各地域が自由度高く作成している。

陸前高田市 表紙含めて4枚

地図に落とし込んで色んな人に見てもらう。この作業はハードルが高いが見やすい

高松で避難所運営マニュアルを作成。30年間にわたって栗林小学校の授業参観の際に、

**地域の方々と防災訓練をしていた。**毎年作成したマニュアルを修正していった。

◎津山市城西地区の取組(参考事例)

城西地区は地域活動が盛んなまちではあった。国のモデル事業で実施

初めてやったこと。各家庭でやったほうがいいこと・地域全体で取り組んだほうがいいこと・市がやったほうがいいこと。クロスロード・ゲームを使って意見だし。毎回100名をこえる参加者。多世代が集っていることも有効。皆で作った地図をもって夏休みに町歩きをした。

## ◎年間計画づくり

防災計画作りは4回で終わると思っていた参加者から「まだ続くのか」という意見もあったが、夏の町歩きをした後に「楽しかったですか？」と質問すると「楽しかった」と叫んだ子ども達の喜ぶ姿に大人たちも積極的にアクションを起す人が増えた。

その他にも避難所の運営ゲームを使って（HVG）

避難所運営訓練を実際実施

毎年台風が来る中で、自分達だけがこのことを知っているだけでは意味がない。地区防災計画の目次攻勢をつくろうということになった。地区住民全員が知っておくべき情報は何かを話しあった。

津山市城西地区防災計画 令和2年1月に完成

地区防災計画をまとめていたので、コロナ過以降も新しい委員の人たちも防災の教科書のように扱っている

防災訓練の時間が固定されていなかったなので自由度が増して参加しやすかった。

## ◎岡山県津山市の良い所(参考事例)

誰でもが参加でき計画書になっている。

川辺地区は町全体が水に浸かる。黄色いタスキ大作戦。無事ですと書かれているタスキをの各家庭の玄関などにくくる。誰でもが参加しやすい。避難訓練の参加者は63.3%

### タスキで乗り越える3つの壁

- 1・遠慮期待の壁(いざ声掛けしようとおもっても邪魔じゃないかと心配になることを払拭)
- 2・プライバシーの壁
- 3、日常・非日常の時間の壁

防災市が住民90人に対して1名が取得。松山市が防災士の取得を斡旋、活用、協協している。

### 防災士を増やす方法。

松山市市の宝と題しその年に活躍した防災士を表彰する。

行政が活躍の場と活躍を後押しする制度を市がバックアップ

多様性ということばについて・・・

色々なことに関心を持つこと。それはだれだれの問題だからと片付けない。

地区防災計画の女性が発言する内容は生活にかかわること。男性は一般論を重視するが、個々の生活のことなので一人一人の困りごとをどう解決するかを地域の皆で解決策を考えていくことが大切。

地域全体の意識を変えていく。文章を作っていくといいのは、「ことがこういう時はこうするよね。」

個々の意見の相違が見えてくる。文字にした内容を皆が「そうだ」と思えるようにお互いの関心毎をお互いが認め合える地域づくりをする。地域全体で地域課題に取り組んでいく。

## 防災士



> [防災協力事業所](#)

> [愛媛大学公開講座「防災士養成講座」](#)

> [松山市の防災士](#)

### ◎平時の防災

～マネジメントを中心に～ 鍵屋一先生

災害はやったことがない・急いであるからできない

教育をうけて行動していくことを続けるしかない。大事なことは相談すること。

間違いが少なくなるという考え方が防災では大切。

ハワイの観光危機管理

6億円基金を積み立てて迅速に対応

重要なのはコミュニケーション責任者を置いている。

民間ボランティア VASH による温かて幅広い支援活動

ホテルの防災担当団体は毎月会合を持ち連帯。危機発生時には情報共有して対応。

避難行動要支援者名簿を秋田県のなまはげが担当。

神社は近くの所の安全な場所に過去震災がある度に移動させてきた。

日本は農業の地域。都市型社会は効率的にしないと助けられない

個別の避難計画をつくらないといけない。

今回の能登震災で見えたこと。家を強くする。家が潰れて死んでいるケースが多い。

能登は水道も復旧しておらず避難所のお風呂も13度だった。簡易トイレも持っていったけれどトイレが立ち入り禁止になっている。理由はトイレが汚物まみれで使えないから。

穴水町は直ぐに避難所を開設。民間ボランティアが民家を片付け。日本の行政の仕事は指定されているところしかできない。ボランティアできない。災害現場が優先順位を決めるの必要性を感じる。日本社会には融通がたりない。地域の人たちが住んでいる場所に支援物資が届かない。トイレの問題は深刻

今回の能登の現状から・・・

津波から逃げるために多くの地域の避難者がいた。当時200～300人の施設が高台へ避難。

その中に妊婦もいた。18時頃にトイレ提供のアナウンス。300人が希望。  
数回にわたりおにぎりを大量に作った。断水への対応は山水をくみタンクで対応。  
コロナ感染対応の確保は難しい。要支援者への対応は無理だった。

復興には若い力が必要。新しいまちをつくる。

40年前に比べると自然災害が頻繁におこる。

「重ねるハザードマップ」というサイトで自分の地区をみてほしい。

どこまで危険かを理解しておくとも行動が変わる。

地震はくるのだから萎えるしかない。

人と防災未来センターの映像をみた。

サバイバーギルを和らげる言葉。

正常化の偏見「自分は大丈夫」

1・地震だ！頭を守れとさけぶ・安全な場所に移動(マンションなら廊下)

目と頭を守るダンゴムシのポーズをとる。低くして身を守る。おおきなゆれに耐える。

家族でケガしていないか・火の元・ブレーカー落とす・隣近所に声をかける。ケガと家事が最優先

自分が死んだらこうするも考える。ケガすることを考えた。皆、自分がケガをするとは考えない。

大きな台風が近づいてきた・大きな地震がきたその時は大丈夫か？を確認してみよう。

◎これからの防災計画には福祉関係者も巻き込む

◎発災時、仕事役職をどこまで遂行するかを決める。助ける側も守る

◎福祉施設の職員は患者を置いて逃げられない。福祉施設は安全な場所に建設しないとイケない。

◎高齢者を守る・障がい者を守るそれが防災計画

人と人との繋がりが弱く不安な社会になっている。だから新しい繋がり・心地よい繋がりが必要。

一緒に助かるために、関連死を防ぐために気にかけるのは、ご自宅にいる70代以上の高齢者

市役所職員は避難所運営で手が一杯

だからこそ、自治会などの機能

被災者支援センターを設置する

官民合わせて、大量の外部支援及び調整を行う。

耐震性について・・・

賃貸住宅は耐震性を公表していない。しなくても良い。ただ大きな地震で亡くなるケースは家賃の安い木造住宅。

大学生かお年寄りが住んでいるケースが多い。耐久性を公表することの大切さ。

昭和56年以前の建物は「極めて弱いと推定」

昭和56年～平成12年「弱いと推定」

平成13年以降「一応安全と推定」

では大家は開示することがふりなのか？大地震で建物が倒壊し、入居者が死傷した場合の建物所有者責任の裁判があり結果、自然力による寄与度の5割を控除した金額である約1億3000万の支払いが命じられた。木造住宅密集地に対しては、地域丸ごと耐震化を実施する必要がある。の人にお金を出して耐震の準備を整える

福祉避難所について・・・

福祉避難所を公表しない(原則)

個別避難計画で事前にマッチングをしておく。

全体の3分の2が車中泊。一番厳しい現状の人が一番しんどい思いをしている。

防災教育は人の心の中に堤防をつくる 防災訓練の重要性 「釜石の奇跡」

戦後は命を守る教育をしてきた。今後は災害から命を守る教育をいいていかないといけない。

◎避難先倉敷市真備町 助けてという人が色を変えカードをつくる。

一人一人ノーマライゼーションを大切に。

どんな人にも力がある。当事者の尊厳を守る。個別避難計画を作成し、事前に全て決めている。

地方議員の役割

1・監視機能

2・政策立案機能

海外では

議会のトップが組長。与党のトップが組長

野党のトップは副市長

個人に投票せずに党に投票する。地方分権になる。

組長も選挙・組長も国の仕事もさせる。地方議会が力を持たないように。

災害時の議会・議員の使命

住民の命と尊厳を守る！市町村と協働して国・都道府県、防災関係者期間と国民に働きかける。

災害！「議員」がすべきこと

住民の命と尊厳を守る(余力があれば財産も)→市町村当局と協働し国、都道府県、防災関係機関、国民に働きかける。

**4月26日**

◎災害時における議会の対応と取組 **いわき市議会議長大峯英之さ**

東日本大震災の当時は議会としての決まりもなかった。市民からの要望の対応。各議員が現場に追われながらも発災から半年後3月28日にいわき市議会としての対策本部を設置。

P18 危機管理本部は設置しない(バラバラで活動)

P20 危機対策本部設置(議会として活動)

P26 避難所は高齢者 最後まで残っている人たちをどうするのか?が問題

最後に感想・・・

鍵屋一先生

## 人生満足尺度

エド・ディーナー・イリノイ大学名誉教授

「全く当てはまらない」1点～「非常に良くあてはまる」(7点)の7段階で点数をつける。その合計が人生の満足度になる

ほとんどの面で、私の人生は私の理想に近い

私の人生は、とても素晴らしい状態だ

私は自分の人生に満足している

私はこれまで、自分の人生に求める大切なものを得てきた

もう一度人生をやり直せるとしても、殆ど何もかえないだろう

30点以上が幸福度が高いとされているようです。

## そしてその後人生を幸せにするのは何か？

75年間 724人の男性を追跡し休むことなく仕事や家庭生活健康などを記録。

1番目のグループはハーバード大学2年生

2番目のグループは極貧環境で育った少年たち

## 人を健康で幸福にするのはよい人間関係に尽きる

ということが研究結果で分かった今、

これからの防災は損失を減らす防災から「価値向上型」の防災へチェンジ!!!

日常から人間関係・近所関係を良好にし、誰一人残さない魅力ある地域社会＝地域共生社会を作ることがしいては災害や危機にも強くなる。

今回の研修を受けて、私が公約にも掲げている防災キャンプ・災害体験キャンプが本当に必要だと思いました。いかにリアルな防災訓練を地域で重ねているかが、発災の際は負け戦。どれだけ準備をしてきたかで多くの市民を守れることも痛感しました。

まず、女性防災士を増やすこと・小学校校区単位での地区防災・防災キャンプの実施にむけて

先ずは、市内の防災士が集まりプロジェクトをスタート。今年は防災士と消防団、地域の役員で実際防災キャンプを実施。翌年度はもう少し規模を拡大。将来的には市民が参加できる取り組みにしていきたい。

(宝塚市は防災キャンプを既に実施。内容が私が思い描くものにととても近く、市役所の方とも視察に行きたいと思いました。)現在問い合わせ中

また個人避難計画も特に福祉避難所を利用する方には発行し、発災の際に相互にパニックが起こらない計画づくりも大切だと感じました。

また講義の中でも出てきた黄色いハンカチ。

各家庭が避難する際、最後の人が玄関にハンカチをくくりつける。救助の際、人がいるかないかをそのハンカチで判断することができるので、少ない人出で救助に当たる際にはとても良いと感じました。

この学びを本市でも活かしていきたいです。